はしり 炙 ŧ 13 友 多く死 17 を \bigcirc 11 か 1000 びもひ 200 17 Ì 17 15 t, P) 7 光り たる。 \bigcirc Ŋ 7 11 Ì また、 たる空の B せらな くも やうそくな **h** . ただ一つこつな を Ta くたなびきた るも なり à M 7 ~ į. Ľ. 電の 14 い き" る

玄さ £" n I Ì 杜 , , Þ ெ 17 Ľ, 7 17 11 Þ ず。 7 11 桩 夕香。 *t*-二つ三つなじ、 た か など ι, る 上 尖 Þ ., 15 桶 7 D の事ねたるがい z べきに £" 0 7 (m) W) きず <u>>></u>り Ź よ 它 Þ のせして、 ŧ. 17 \bigcirc なきも、 多 あら 果てて、 7 钱 福じころへ \bigcirc **犯び重ぐせつあはれなり。** ふきたがちにな 14 して、 ず。 h Į 1-といせく兄 い 後も 4 1= R わ \bigcirc B せら る \bigcirc 11 沼 2 苔 7 , , بع 没 で .,. M 11 7 h る る べ 忠 M きに ŧ る \bigcirc V, ١, ミっ 当日 は、 ŧ Ł 6 7 ŧ 7 ١, Þ

もをかし。ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るぼのかにうち光りて行くもをかし。雨など降る多く飛び違ひたる。また、ただ一つ二つなど、夏は、夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢のは」少し明りて紫だちたる雲の細くたなびきたる。春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく「山ぎ

あらず。霜のいと白きも、またさらでも、いとあいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音ないとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音ないとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音ないとがいたるに、烏の寝どころへ行くとて、三つ秋は、夕暮。夕日のさして、山の端(は)いと近秋は、夕暮。夕日のさして、山の端(は)いと近

ろし。 いけば、火桶の火も、白き灰がちになりて、わとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもて寒きに、火など急ぎ熾して、炭もて渡るも、いあらず。霜のいと白きも、またさらでも、いと冬は、つとめて。雪の降りたるはいふべきにも

5